

つながる

第4部 信頼の作り方

9

インターネットで会員同士が交流する「ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)」は、原則として会員の紹介がなければ参加や閲覧ができない。匿名性の高いネット上のサービスとは異なるため、知り合い同士の交流には便利だ。SNSを地域の人間関係作りにも活用する取り組みが始まっている。

千葉市のJR西千葉駅前。千葉大学を中心に商店街などがあるこの地域で昨年2月、SNS「あみっぴい」が始まった。運営するNPO法人「TRYWARP」は、学生と住民を結びつけようとパソコン教室を開いてきたが、さらに交流を進めるため、SNSに着目した。

地域内ネットで交流

代表理事の虎岩雅明さんは「人と人とのつながりが強い地域では、ますます強くすることが出来る。ネット上に別の世界を作るのではなく、現実の世界をもっと良くするものだと考えている」と話す。

会員は1900人以上。身の回りの出来事をインターネットに日記形式で書き込み、会員同士で読み合う。しばらく会っていない人も、相手の行動や考えが分かり、次に会った時に話が盛り上がる。

会員の1人、主婦の田畑みどりさん(59)は、よく通っている中華料理店の経営者夫妻との交流をSNSに書くことが多い。新メニューの感想を書き、雨でぬれた自転車のサドルをふいてくれた奥さんの優しさについてふれる。「お互いに信

頼があるから書けるし、書くことで信頼がまた高まる」と田畑さん。SNSが始まってから、店を訪ねる頻度が高まった。

地域内で新しい関係が生まれることもある。田畑さんは、孫のことをつづった女性の日記を読んで会いた



中華料理店に集まった田畑さん(右)や虎岩さん(右から3人目)ら「あみっぴい」の会員(千葉市で)

関係強化、新たな出会いも

くならず、友人2人を誘って会う約束をした。その場、この女性の知人の大学生もやって来て、知り合いの輪が広がった。

昨年6月には千葉大出身のシンガー・ソングライターのコンサート開催がSNS内で口コミで広がり、

約350人が集まった。西千葉のまちづくりにかかわってきた

商店会の元会長、海保真さん(66)は「SNSによって、自分の知らないところでいろいろな出会いが起きていくことがわかる。そうした場を逃さず、自分もかわかりたいという思いが、またつながりを作る」と話す。

あみっぴいのような、自治体や地域に限定されたSNSは地域SNSと呼ばれ、全国に300近くあると言われる。情報や意見をネット上でやりとりするだけでなく、地域でサークル活動や催しを行うなど、実生活での交流と関連したものがほとんどだ。

各地の運営者が集まる地域SNS研究会の庄司昌彦さんは、「SNSはつながりを作り、育てる魅力的な仕組み。ただ、あくまで道具に過ぎない。便利で面白い地域を作るには、ネット上の出会いをきっかけとして、人と人が直接かかわることが大切でしょう」と話す。